

# 伊良湖岬エコツアー「タカとチョウの渡りを観察しよう」

2008年9月28日(日)、10月4日(土) 伊良湖岬周辺(田原市)



サシバ



アサギマダラ♀



NPO法人 東三河自然観察会

主催 田原市観光協会

## 伊良湖岬の地形・地質

岬の先端は、差し渡し500m、最高91mほどの小山になっています。こんな狭いところでざっと2億年からこっちの 三波川帯 秩父帯の岩石がひしめきあっているのがくちゃくちゃです。

これらの岩石帯は、中央構造線に沿って、神島などの島々を伝い 志摩・紀伊半島へ続いています。

## 伊良湖水道

伊良湖と神島の間は4.4km、暗礁もあり、航路として使えるのは僅か1.2kmの巾しかありません。ここを伊勢湾・三河湾への巨大船が通過するのですから海の交通管制も大変です。



## 植物の生活

海岸には海岸特有の植物達が、湿地には湿地の、高山には高山の、乾燥地帯には乾燥地帯特有の植物があります。なぜ、同じ植物の仲間なのに違いがあるのかな？

それは生き残りのための戦いの結果！

植物が生きていくために必要な物は何？

空気(酸素と二酸化炭素)水、肥料、

そして太陽の光と適当な温度

何れが欠けても植物は立派に育たない。

では、海岸はどんな立地条件？その特別な立地条件の中で生き残ることができる植物があります。



それだけじゃない植物の大変な生き方！

その他の立地条件に風や生えている所の条件も植物の成長には大切！

例えば

①生えている所が崖の途中だったら？

②いつも同じような向きに風が吹いていたら？

決まった方向にまがって成長する。

①は

②は



# タカの渡りを観察しよう!!

Q どんなタカがわたるの？

A 代表的なものは、サシバとハチクマです。

他のタカや小鳥類も同時に通過します。

ノスリ

特にヒヨドリは、100羽以上の集団で移動します。



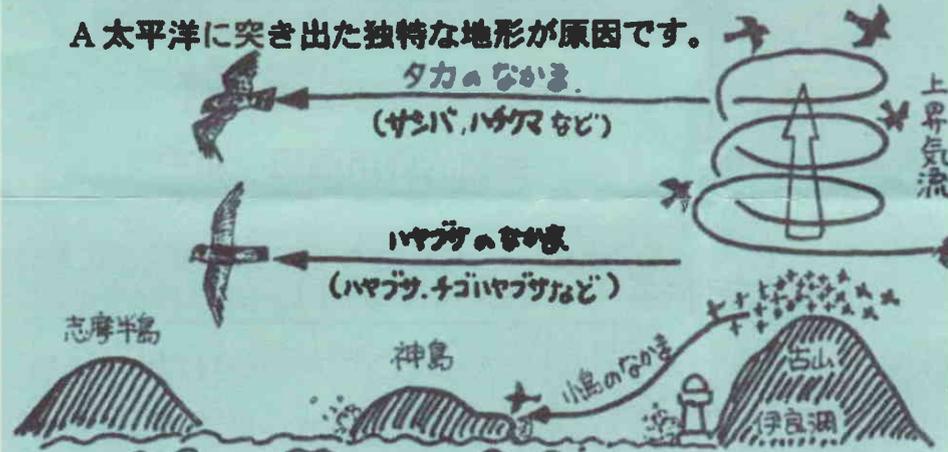
サシバ



ハチクマ

Q なぜ、伊良湖岬が「渡り鳥銀座」になっているの？

A 太平洋に突き出た独特な地形が原因です。



巣鷹わたる  
いらんが時うたがいて  
なお木に帰る山がえりかな  
西行

タカの渡りを詠んだ和歌

【今日の観察記録】

年 月 日( ) 天候 :

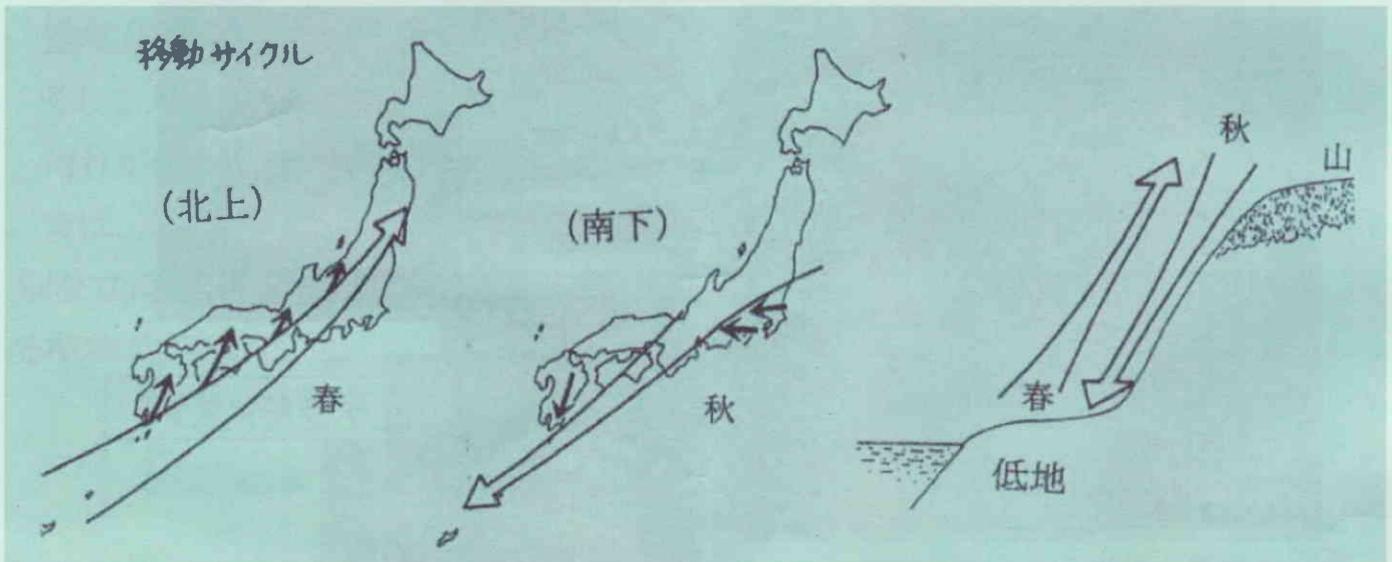
風向 :

時刻	サシバ	ハチクマ	他の野鳥
8:30-9:00			
9:00-9:30			
9:30-10:00			
10:00-10:30			
10:30-11:00			
11:00-11:30			
合計	羽	羽	

## 海を渡るチョウ…アサギマダラ…

マダラチョウ科で翅の白っぽい部分がうすい青色(浅葱色)に見えるため、この名がつけられました。開長 10 cm前後の大型の美しいチョウで日本列島を下のよう移動します。

幼虫は、キジョラン、ガガイモ、オオカモメヅル、イケマなどを食草としています。



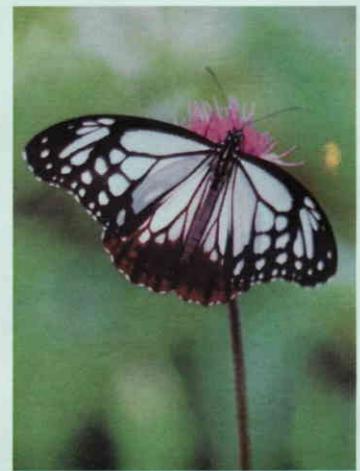
渥美半島周辺では、9月下旬頃からヒヨドリバナやアザミ、ツワブキに吸蜜しているアサギマダラを見ることができます。移動途中のマークのついたチョウに注目!!



幼虫



蛹



成虫(♂)

☆アサギマダラのマーキング調査をして、生態の謎を探ろう。

- ① 移動の時期や方向をどうやって知るのかな？
- ② 何のために海を越えてまで長距離移動をするのかな？